

令和4年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の具現化を目指し、「感謝のできる」実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」「英語」に重点を置き確実に進展させる。 ・今年度から始まる明德コースについて学校全体で取り組み充実を図る。県内の全中学校・中学3年生に対し、広報の充実、周知の徹底を図る。 ・仰星コース、特進コースについては、学力の向上、進路実績の充実を図る。 ・新入生500名以上を確保する。 		
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> I 礼 節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を図る。 II 進 学：進路指導を充実し、昨年度を上回る進路実績を目指す。 III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。 IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。 V 英 語：各コースにおいて検定等の目標を明確にして、英語の星城を一步すすめる。 VI 明德コース：学校全体で取り組むと共に広報の徹底を図る。 		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策<数値目標>
I	コンプライアンスの徹底 生徒主体の活動	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学年集会（学年主任講話等）を通して、学校のルールや社会的規範を遵守した行動をとることの大切さを理解させる。 ○星城高校の生徒として一人ひとりが自ら判断・行動できるような人物に成長させるため、級長の中から各コースリーダー（仰星・特進・アス・理・文コース）各1名を選出し、学年行事、集会時の整列指示・身だしなみ等の確認を行うことで、生徒の主体性を高める。 ○級長・副級長会議を開催し、上記内容が円滑に進行する方法について話し合いを行なうとともに、教員から助言・指導する。 ○STの司会を生徒が行うことで主体性を養う。 ○学年集会・式典において、各コースリーダーの指示で、15クラス中12クラス以上が、5分前に集合完了する。》
I	テスト実施の在り方	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストのルールを遵守してテストに臨ませるため、ホームルーム等で生徒に指導する。 ○テスト毎に、「テストに関する注意事項等」をメール等で配信して、不正行為が起きないようにする。（教員、生徒、保護者に対して） ○テスト時のトラブルゼロ》
I	生活習慣の確立	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部の登校時の挨拶指導において、挨拶と共に服装の乱れがないかを生徒自身で確認するように声かけをする。 ○欠席日数を減らすために、担任による個別面談を複数回実施し、生活習慣の確認や抱えている悩みなどの早期把握に努める。そして、悩み等の相談に応じることで安定した高校生活が送れるようにする。 ○年間出席率が90%以上》
I	交通ルールの遵守とマナーの向上	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○交通講話等を利用して交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、歩行者通学者に対しても交通安全とマナーについてのチラシを配信するなどして交通ルール遵守を喚起していく。自転車通学者には、危険運転やマナーについての具体的な事例を示して、交通安全に努めるように働きかける。 ○全国交通安全運動期間や本校自転車通学指導週間では、注意事項をClassi配信するなどして安全利用五則の徹底を図る。 ○各学期の始めに、生徒指導部から建学の精神に触れ、交通マナーについての啓発していく。 ○自転車と車の接触事故 年間10件未満》
I	健全な心身の育成	保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で実施する保健部講話（教育相談講話）の内容を充実させる。 第1学年では、性的少数者（LGBT）について深く理解させて、周囲に対象者がいることを前提にした発言や行動を考えさせる。 第2学年では、異性との関係にどのように向き合えばよいかを理解し、興味本位ではない正しい性の知識と行動を身につけ、「いのち」について考えさせる。 第3学年では、人と人との関わりあいの中で、互いを大切にす気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。 ○保健部便り（教育相談便り）『はーとん』を発行し、生徒の心身の健康を啓発する。 ○各講話終了後のアンケート調査で、生徒の理解度が95%以上》
I	地域住民との協働	仰星特進コース 探究部	<ul style="list-style-type: none"> ○「花溢れる街づくりプロジェクト」を継続するための新しい取り組みを生徒とともに模索し、実践する。（今年度は1単位、平日にて実施） ○地域住民との協働を通して、協力していただける地域の方や自分がおかれた環境に対して感謝し、他の人を敬う態度を育成する。 ○「花溢れる街づくりプロジェクト」への地域住民参加者 A：60人以上、B：50人以上、C：40人以上、D：40人未満》
II	各種検定受検の後押し（明德）	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○進路選択の幅を広げるために、担任の協力を得て、学年検定係から各種検定への積極的な挑戦を促す。 ○漢字検定・数学検定・英語検定の受検者数各100名以上》
II	学習習慣の確立（仰特アス）	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な個人面談（各学期2回以上）を実施して、一般入試に耐えうる学力の土台構築のために学習習慣の確立と改善を図り、スタディーサポート3教科GTZでBゾーン以上を目指す。 ○3教科GTZ Bゾーン以上の生徒35%以上》
II	小論文講座の受講（文系・理系）	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○入試を意識した準備学年として、小論文講座（基礎編）の受講を推進し、文章作成能力の向上を目指す。 ○小論文講座（基礎編）受講者数100名以上》
II	模試GTZ（仰特アス）	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学進学を第1希望と考えることを前提とした進路指導を進める。その中で、平素の授業を大切に学習を勧めるとともに、ベネッセ総合学力テストにおけるGTZの変化を常に意識させ、進路実現に向けた学力向上に努めよう指導する。 ○ベネッセ位総合学力テスト GTZ3科総合 B1以上の生徒50%》
II	基礎学力の充実	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の10分間学習を意欲的に取り組む指導を行うことで基礎学力の充実を図る。 ○スタディーサポートの事前シート・振り返りシートを活用し、生徒自らが学習習慣等を見なおすことでGTZの向上を図る。 ○スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、進学・就職目標を達成できるように家庭学習（予習・復習）時間を増やすように指導を行う。 ○仰星：GTZ B2以上50%、特進・アス：GTZ B以上50%、普通：GTZ Dゾーン50%以下》
II	進路獲得の実現	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○仰星・特進・アスコースは、国公立大学受験を挑戦する気持ちを持ち続けることができるように、HRや面談、集会等を通して生徒に促していく。 ○国公立大学 出願者数100名以上、合格者数30名以上を目指す。》 ○理・文コースは、小論文講座（集中講座含む）、就職対策講座、志望理由書き方講座受講を促し、総合型選抜・学校推薦型選抜を中心に進路に向けての活動をサポートする。 ○講座受講者100名以上》
II	業務改善	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の業務内容を整理するために、1つ1つの業務の見直しを進める。特に電子化の推進に重きを置き、指導要録の電子化を最重要課題とする。スムーズに導入できるように、作成に関する注意事項を周知徹底し、場合によっては講習会などを行う。 ○新学習指導要領の変更に伴う観点別評価について、よりよいものになるように改善をしていく。 ○業務改善の実施事案 5つ》

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定	学習指導部	<p>○学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、次回に繋げる。早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《各学年GTZ Dゾーン生徒の割合を20%以下にする。(S:10% A:20% B:30% C:20%を目標とする)》</p> <p>○『GTZ』を一つの指針として学習を進められるよう、必要な基礎学力の定着状況について、各自が実感できるような指導を行う。また、スタディーサポートの事前・事後指導を学校共通の動きとして行うために、学習指導部だけではなく各担任・教科担当からも実力テスト・各種模試受験の意義や学習の取り組み方、目標設定の方法や帳票の見方・活用方法などについて細かい指導ができるように教員側のスキルアップを図る。</p> <p>《教員のベネッセハイスクールオンラインへの登録数が60%以上》</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(1年)	進路指導部	<p>○1年生：英検、漢検、教検に積極的に挑戦させる。そのため、コース別集会において進路における検定の重要性をそれぞれのコースに対して伝えながらクラス担任による個別面談に繋げていく。進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。</p> <p>《英検受験150名、漢検受験100名、教検受験50名》</p> <p>○仰星コース：学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、第2回に繋げる。</p> <p>《担任による生徒面談を年間4回以上実施する。GTZ：S→20% A→60% B→20%(1学年50名中)》</p> <p>○特進・アスリートコース：コース別集会、個別面談を複数回実施し進路目標設定の動機付けを行い、国公立大学・難関私大を視野に入れた進学指導を施す。進学通信などを配信し地方国公立にも目を向けさせる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が30名以上》</p> <p>○明德コース：基礎学力の定着とともに、検定への積極的な挑戦を後押しする。</p> <p>《進級時のGTZのDゾーンを60%以下》</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(2年)	進路指導部	<p>○2年生：進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。各種検定に積極的に挑戦させる。</p> <p>《英検受験150名、漢検受験200名、教検受験50名》</p> <p>○仰星コース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月において、国英数総合偏差値50以上が30名。(2学年45名中)》</p> <p>○特進・アスリートコース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月において、英国数、英国社、英数理いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上》</p> <p>○理・文コース：小論文講座を積極的に受講させると共に各種検定にも挑戦させる。</p> <p>《小論文講座受講者250名》</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上(3年)	進路指導部	<p>○3年生：スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、進学・就職の目標を達成する。</p> <p>《仰星GTZ B2以上50%、特進・アスリートGTZ B2以上50%、理・文GTZ Dゾーン50%以下》</p> <p>○仰星・特進・アスリートコース：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。</p> <p>《国公立大学出願数100名以上、国公立大学合格者30名》</p> <p>○理・文コース：進研模試結果6月をもとに保護者会で目標設定をし、推薦基準となる9月の模試に向けた動機付けをしっかりとさせる。また、夏休み中の補習参加などを促し、生徒全員の学力向上に繋げていく。小論文講座を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜での進路獲得に繋げる。内部進学者増を目指し、進路相談会などを企画・実施する。</p> <p>《内部進学者40名、小論文講座・就職対策講座・志望理由書き方講座受講100名以上、指定校推薦獲得50名、大学・短大合格者延べ150名》</p>
III	強化部の入学生徒増加と人間性の向上指導	生徒指導部 部活動支援	<p>○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化して生徒募集の現状を把握して、問題の解決を図ることで強化部の入学生徒増を目指す。</p> <p>○日々各部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の向上を図る。</p> <p>《部活動の生徒募集による入学者数110名確保》</p>
III	部活動運営の把握と管理	生徒指導部 部活動支援	<p>○各種大会日程や結果を教職員に向けて広報し、部活動の活躍を応援する体制作りに努める。</p> <p>○生徒が各部活動の大会応援に行くなど、全国大会出場に向けた環境作りと支援を行う。</p> <p>《応援する体制作りができた。》</p>
III	部活動ガイドラインに則った部活動運営	生徒指導部 部活動支援	<p>○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。</p> <p>○「部活動指導ガイドライン」や「部活動に係る活動方針」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。</p> <p>○部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。</p> <p>《部活動における不祥事ゼロ》</p>
IV	交流国と親交を深める	庶務・ 国際交流部	<p>○現行のアメリカ、ブルガリア、オーストラリア、カナダ、パラオの交流校および各協会と密に連絡を取り交流を深める。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大状況や国際情勢に応じ、海外への渡航(交換留学や短期留学)を可能な範囲内で計画し、実施の方法を模索する。また、昨年度に引き続きオンライン交流を行い交流校・交流国との親睦を深める。</p> <p>《R4年度の留学の計画が、上記5カ国で進んだ場合A、4カ国の場合B、3カ国未満の場合C》</p>
IV	新たな交流国の開拓	庶務・ 国際交流部	<p>○旅行者や協会などの協力を得ながら新たな交流国の開拓に努める。新型コロナウイルスの感染状況や国際情勢に応じて留学生の受け入れ(ホームステイなど)の実施に向けて努力する。</p> <p>《新たな交流国や留学生の受け入れができた場合A、新たな交流企画が実現できた場合B、現状維持の場合C》</p>
VI	探究学習の充実	明德コース 探究部	<p>○明德コース第1学年の「総合的な探究の時間」において、「社会未来探究」のカリキュラムを開発し、実践する。</p> <p>○SDGsを通して社会課題を自分事として捉え、原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成する。</p> <p>《ループリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>
VI	明德コースの広報	広報部	<p>○HPで明德コースの活動を知らせる。HPに探究の項目を新設し、1年次の社会未来探究【星城プロデュース!】【学ぼうSDGs】をテーマに活動している写真・コメントをアップする。</p> <p>《HPに年10回以上アップする》</p> <p>○中学校へ訪問し明德コースリーフレットを配付して、取り組みを周知する。6月、愛知県下の中3生全員に明德コースリーフレットを配付し、明德コースの活動を周知する。</p> <p>《重点校17校の中3生全生徒に配付する。》</p>